

参考資料：最近の報道より

17年度内に基本計画素案/名古屋市の相生山緑地 124ha 整備

【環境への配慮軸に検討】

名古屋市緑政土木局は、同市天白区の相生山緑地（約123.7ha）整備について、2017年度内に動線計画や施設計画、基本計画の素案をまとめる。6月に市幹部らで構成する検討会議（会長・河村たかし市長）が会合を開き、施設の概要などについて議論を始める。17年度予算に検討費用2550万円を計上している。14年に河村市長は、市民の反対意見を受け相生山緑地を横断する弥富相生山線道路整備の中止を決定。未完成のまま残された長さ892m、幅員12-16mの横断道路は、そのまま公園施設として活用する方針を示した。

廃線となった貨物鉄道の高架線を民間と協力し公共空間として再生した米ニューヨークの「ハイライン」を参考に、相生山緑地を世界の「AIOIYAMA」とする一体的整備を検討。緑地をバリアフリー化し、障がい者のリハビリや活動の場として活用するユニバーサルデザインの導入などを例に挙げている。

しかし、里山としての開発を希望する案など整備に当たっては市民の間でも意見が分かれており、慎重な判断を必要としている。市の担当者によると「市民の意見と周辺環境への配慮を軸に整備を検討する。キャンプ場としての活用などさまざまな可能性がある。できるだけ市民の声を反映したい」という。

検討会議は▽道路事業廃止▽交通対策▽緑地整備—の3作業部会で構成する。17年度は道路事業廃止部会が交通課題の解決など、交通対策部会が歩道や防護柵の設置など、緑地整備部会が基本計画素案の作成などを予定している。

建設通信新聞 [2017-04-26]